

初めての実験セット (デラックス)



『初めての実験セット(デラックス)』は、お子さまが楽しく実験を体験しながら、自然とSTEM教育に親しめるよう設計されたセットです。好奇心をくすぐる多彩なアクティビティが、お子さまの考える力や発見する喜びを引き出し、成長をサポートします。親子で一緒に取り組むことで、学びの瞬間を共有し、お子さまの新たな一面を発見する素敵な時間になることでしょう。

セット内容

- ・高さ調節可能スタンド (クリップ付き)
- ・安全ゴーグル
- ・ロート× 2
- ・拡大鏡
- ・チューブとコネクタ (各× 2)
- ・書いて消せる科学実験ノート
- ・試験管とフタ (各× 2)
- ・スポイト
- ・試験管立て
- ・アクティビティカード 20 枚
- ・丸底フラスコ
- ・日本語説明書
- ・三角フラスコ
- ・穴の開いた栓× 2
- ・栓
- ・試験管 (大)
- ・固形フタ
- ・通気フタ

拡大鏡の使い方

- ① 見たいものをシャーレに入れます。
 - ② 片目でのぞき、反対の目は閉じましょう。
 - ③ 焦点調整ノブでピントを合わせます。
- ※観察鏡部分はボタンを押して取り外しができます。
持ち歩いて色んなものを拡大して見てみましょう。



Primary
Science

【実験ノート】 各実験で使用します。



実験①



見えた物を描いてみましょう。

実験②③



目で見えた物、拡大鏡で見えた物をそれぞれ描きましょう。

実験④



混ぜ合わせてできた色を線で結びましょう。

実験⑤



関係のある物を線で結びましょう。

実験⑨



フラスコに見えた花火を描いてみましょう。

実験⑬



何が聞こえますか？匂いがありますか？何が見えますか？

実験⑭



早く液体を注ぎ終わった物に○をつけましょう。

実験⑰



スパゲッティがどう見えたか描いてみましょう。

実験⑱



塩水に浸かった後のクマに○をしましょう。何も混ぜていない水に浸かった後のクマに○をしましょう。

【使用例・注意】

- 「初めての実験セット（デラックス）」をお子さまに見せ、各器具の名前、正しい使用方法について説明しましょう。
- 子供たちに実験器具を触らせて自由に使用させてみましょう。それぞれの器具をどのように使うことができるか等、自ら発見するチャンスになります。
- 理科の実験の前に、実験器具と水を使って練習をさせて実験器具に慣れさせましょう。
- 20枚のアクティビティカードが入っています。下記の日本語訳を参考にして、簡単な理科の実験を大人の方の目の届く範囲で行ってください。写真に含まれる液体等は付属していません。実験には別途、ご家庭や学校等で用意が必要なものがあります。
- 実験器具使用後は、ぬるま湯で洗剤を使い手洗いをしてください。

⚠ 警告

しょうぶひん
小部品があります。誤飲・窒息の危険があります
さい みまん
ので、3才未満のお子様には絶対に与えないで
かぞく かくだいぎょう たいよう み ぜつたい
ください。付属の拡大鏡で太陽を見ることは絶対に
しつめい おそ
おやめください。失明の恐れがあります。

⚠ 注意

ちい ぶひん くち なか ぜつたい い
●小さな部品があります。口の中には絶対に入れない
ちっそく きけん ほこしや
でください。窒息の危険があります。●保護者のもと
あんぜん あんぜん はそん へんけい
で遊ばせてください。●安全のため、破損・変形した
おもちゃは使用しないでください。●梱包資材（袋等）
しよう しょう こんぼう しさい かくろうとう
は全て取り外してからお子様に与えてください。

① 虹の氷

塩は氷を侵食し、穴をあける。

用意するもの

水、紙コップ、アルミニウムのトレイ、
食用着色料（4色以上）、塩、スプーン

使う道具



やってみよう！

大人の人が冷凍庫から氷を出してトレイにおいてあげてください。（下記※参照）

- ①両方の試験管に大さじ 1/2 の塩を入れましょう。
- ②片方の試験管に3滴の着色料を入れ、もう片方の試験管に違う色の着色料3滴を入れます。試験管にフタをし、よく振って塩と食用着色料を混ぜ合わせましょう。
- ③色のついた塩を試験管から取り出し、氷の上に乗せると虹色の氷に！
- ④使った試験管を洗い、塩と違う色の着色料を入れ、虹を広げましょう
- ⑤拡大鏡を動かして氷を見てみましょう。
- ⑥塩は氷にどんな影響を与えたのでしょうか。氷は前と違って見えますか。
- ⑦実験ノートに氷がどんな風に見えるかを描いてみましょう。

※紙コップ半分の水を冷凍庫に入れて大きな氷のかたまりを作ります。紙コップの紙を氷からはがして、手順①～⑦まで続けてください。



② 偉大な外の世界

花や葉っぱはそれぞれ違う質感を持っている。

用意するもの

色・サイズ・形の違う5本以上の花や葉、クレヨン

使う道具



やってみよう！

- ①拡大鏡を持って外に出てみましょう。
- ②大きいもの、小さいもの、カラフルなもの、乾燥しているもの、しわくちゃになったものなど、いろいろな違う種類の葉っぱや花をたくさん探しましょう。
- ③集めた植物を並べてみましょう。さらに拡大鏡でもっとよく見てみましょう。
- ④植物の世界を実際の大きさに拡大したら、同じように見えますか？なぜでしょう？
- ⑤それぞれの植物の様子を見比べたら、拡大鏡で見たものを実験ノートの拡大鏡のページに描いてみましょう。クレヨンを使って描き出しましょう。
- ⑥植物にそれぞれ違った質感があるように、紙もそれぞれ違った質感があります。紙幣やペーパータオル、新聞など違う種類の紙を見比べてみましょう。



③ 裸の卵

酸(酢)は塩基(卵の殻)を溶かす。塩基 or アルカリ

用意するもの

水、生卵、酢、プラスチックスプーン、ペーパータオル

使う道具



やってみよう!

- ①試験管(大)の底にフタをして、試験管(大)を平らな場所から横に傾けて慎重に卵を滑らせましょう。
- ②試験管(大)を右上に傾けて、卵を覆うくらいの十分な酢を注ぎましょう。その際卵から出てくる泡(炭酸ガス)に注意しましょう。
- ③試験管(大)に別のフタをかぶせ、冷蔵庫に入れておきましょう。
- ④24時間後、酢の中からスプーンで卵をやさしくすくって、ペーパータオルの上に置きます。殻が溶けてくるのでやぶれないように注意しましょう。
- ⑤注意して酢を捨て、卵を試験管(大)に入れなおし、また新たに酢を入れたら、フタをしてさらに冷蔵庫で48時間おきましょう。
- ⑥48時間たったらもう一度卵をやさしくスプーンですくみましょう。
- ⑦殻のない、むき出しの卵ができたはずですが!卵に見えますが、シースルーみたいになっていますね。やさしく握って卵の膜がどう変化したかを注意して見てみましょう。



※予備の卵を用意しておきましょう。この実験は数日かかることがあります。

④ 色の混合

新しい色を生み出す 3 原色の混合

用意するもの

食用着色料(赤・黄・青)、水

使う道具



やってみよう!

- ①試験管(大)に半分の水を入れましょう。
- ②5滴の赤い食用着色料を入れて、フタを閉めてよく振り、フタを外します。
- ③2つの試験管に水を入れましょう。片方の試験管に黄色い食用着色料を5滴入れてフタをしてよく振り、フタを外します。もう片方の試験管には青色の食用着色料を入れて同じようにします。
- ④チューブとコネクタをロートにつなげて、ロートをスタンドに取り付け、三角フラスコにチューブを差し込みましょう。
- ⑤黄色の水を片方のロートに、青色の水をもう片方のロートに半分ずつ注いで、チューブからフラスコに流れてきた色を見てみましょう。何色ができましたか? 実験ノートに黄色と青色で何色ができたかを記録しましょう。
- ⑥フラスコを空にして、今度は赤色の水と残っている青色の水をロートに分けて半分ずつフラスコに入れましょう。何色ができたか実験ノートに記録しましょう。
- ⑦最後に、赤と黄色の水を空の試験管に混ぜてみましょう。赤と黄色で何色ができたかを実験ノートに記録しましょう。



⑤ 泡を吹く火山

酸(酢)と塩基(重曹)が混ざると二酸化炭素を発生する。

用意するもの

酢、アルミニウムのトレイ、重曹、計量カップ、
食器用洗剤

やってみよう!

使う道具



- ①丸底フラスコの上にロートを置いて、ロートを通して酢を 1/2 カップ入れましょう。
- ②トレイかシンクの内側に三角フラスコを置いて、1/4 カップの重曹を入れましょう。
- ③ゴーグルをかけて、丸底フラスコの酢を三角フラスコに少しずつ注ぎましょう。
- ④見てください! 噴火です!
- ⑤噴火がよりゆっくり、長く続くように、食器用洗剤を一押し分入れてみましょう。
酢を注ぎ続けて、もう一度噴火させてみましょう。
- ⑥実験ノートを見て、関連あるものを線で結びましょう。



⑥ キャンディーペイント

新しい色を作るための色の混合

用意するもの

水、マーブルチョコレート(またはキャンディー)、筆、
白い紙、カップ

やってみよう!

使う道具



- ①チョコレートを色別に分けましょう。
- ②片方の試験管には青色、もう片方の試験管には赤色、三角フラスコには黄色のチョコレートを 10 個ずつ入れましょう。
- ③カップに水を入れ、試験管とフラスコのチョコレートにスポイトで十分な水を注ぎましょう。
- ④試験管にフタをして、フラスコに栓をつけ、色が変わるまでやさしく(ゆっくり)振りましょう。
- ⑤色のついた水の中に筆を浸して、紙に絵を描いてみましょう。
- ⑥紙の上で色を混ぜてみましょう。新しい色が作れるでしょうか?



⑦ プラスティックミルク

ミルクの中のたんぱく質が酢の酸性と反応すると、カゼインと呼ばれる塊ができる。

用意するもの

牛乳、電子レンジ用加熱容器、酢、
計量カップ、スプーン、ペーパータオル、こし器（ろ過器）

やってみよう！

使う道具



- ①電子レンジ加熱対応の容器に1/2の牛乳を入れて、大人の人に電子レンジで30秒温めてもらいましょう。
- ②フタを外した試験管をスタンドにおきましょう。
- ③ロートを使って牛乳を容器から試験管に入れましょう。
- ④1/4カップの酢を計量カップに注ぎ、スポイトで2滴の酢を試験管の牛乳に入れましょう。
- ⑤牛乳が固まり始めるのを見てみましょう。この現象は酢に含まれる酸が牛乳に含まれるたんぱく質を壊し始めているためです。
- ⑥スプーンで酢と牛乳を1分間かき混ぜてみましょう。
- ⑦シンクにこし器を置いて、牛乳と酢の混合物をこし器に注ぎ、すべての液体が出てくるように、しっかり混合物を出し切りしましょう。
- ⑧残った混合物をペーパータオルに取り出し、圧迫して水分を取り除きましょう。固まってきて固体のプラスチックのように見えてきたでしょう。
- ⑨約2日でそのプラスチックは飾りにもできるほど固くなるでしょう。好きな形を作ってみよう！



⑧ 食材の中の発見

食材は肉眼では見えない組織を持っている。

用意するもの

玉ねぎ、マッシュルーム、ラズベリー、
イチゴ、ポップコーン、マシュマロ、コショウなど

やってみよう！

使う道具



- ①大人の人に、用意した食品を小さく切ってもらいましょう。
- ②試験管（大）を平らなところにおき、食品を中に入れてフタをしっかりと閉めましょう。
- ③試験管（大）の中で食品がどんなふうになっているか観察してみましょう。
- ④実験ノートに食品の絵を描きましょう。
- ⑤次に、食品を拡大鏡のシャーレに置き、観察してみましょう。
- ⑥実験ノートに拡大鏡では食品がどんなふうに見えたか絵に描いてみましょう。
- ⑦試験管（大）に入れて見た時と拡大鏡で見たときで、食品がどう見えたかを実験ノートに描いた絵で比べてみましょう。
- ⑧違う食品を使って実験を繰り返してみましょう。



⑨ フラスコの中の花火

水と油は密度が違うから混ざらない。

用意するもの

食用着色料（2色）、水、油、スプーン、ストローかマドラー

やってみよう！

使う道具



- ①チューブとコネクタをロートにつなげて、スタンドに取り付け、三角フラスコにチューブを入れましょう。
- ②丸底フラスコに水を入れ、ロートを通して三角フラスコに水を注ぎましょう。
- ③スタンドに試験管を置き、食用油を大さじ3杯、2種類の食用着色料を4滴ずつ入れて色水を作りましょう。
- ④ストロー（マドラー）を使って食用油と色水を混ぜ合わせましょう。
- ⑤試験管の油と色水の混合物を、ロートとチューブを通して平底フラスコに注ぎましょう。花火を見てみてください！
- ⑥フラスコの中にどんな花火が見えたか実験ノートに絵を描いてみましょう。



⑩ 色が変化するセロリ

植物は水を吸収し、水は植物の上の方に向かう。

用意するもの

水、食用着色料（2色）、葉がついているセロリの茎、白い花（例：カーネーション）

やってみよう！

使う道具



- ①大人の人にセロリの根の部分を取り除いてもらいましょう。セロリは試験管より3～4インチ（77～102ミリ）高くしておきましょう。白い花も同じようにしましょう。
- ②フタを外した試験管を2本、スタンドに置きましょう。
- ③丸底フラスコの半分の線まで水を入れましょう。
- ④フラスコでそれぞれの試験管に半分水を注ぎましょう。
- ⑤それぞれの試験管に10滴の食用着色料を入れましょう。（それぞれの試験管には2種類の違う色の着色料を選んで入れましょう。）
- ⑥試験管にフタをして振り、混ざったらスタンドに戻してからフタを外し、片方の試験管にセロリを、もう片方の試験管には白い花を入れましょう。
- ⑦何が起こるか予想してみましょう。
- ⑧セロリと白い花を4時間後に観察してみましょう。色が変わり始めているでしょうか。再度8時間後に確認してみると、どうなっているでしょう。24時間後にもまた確認してみましょう。



⑪ 氷の配達

塩は氷を溶かす。

用意するもの

氷、水、糸（細いひも）、塩、スプーン

使う道具



やってみよう!

- ①試験管の一番上まで水を入れましょう。
- ②水の中に氷を入れましょう。
- ③糸を何本か氷の上に置きましょう。
- ④その糸で氷を持ち上げられるか、試してみましょう。
- ⑤両手で糸のどちら側かの端を持ち上げてみましょう。
できましたか？
- ⑥糸を横に置きましょう。
- ⑦氷の表面に小さじ1の塩を入れ、塩が溶けるのを30秒待ちましょう
- ⑧氷の上にもう一度糸をおいてみましょう。ゆっくり15秒数えて、氷と糸を一緒に水の中に押し込み、持ち上げてみましょう。今度はうまくいったでしょうか？どうしてでしょうか？
- ⑨塩が氷を溶かしたことで糸が氷の表面にちょうどくっついて、水の中から持ち上げられたのですね。



⑫ ミルクの染色

表面張力は、液体がその表面上の物体に抵抗するときに生じる。

用意するもの

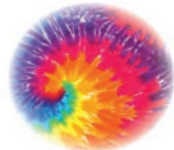
計量カップ、ミルク、食器用洗剤、綿棒、
食用着色料、浅いボウル、水

使う道具



やってみよう!

- ①丸底フラスコにロートをのせて、牛乳1/2カップをロートを通して注ぎましょう。次にフラスコからボウルへ注ぎましょう。
- ②牛乳に食用着色料を5滴入れましょう。（混ぜないでください。）
- ③ゴーグルをかけましょう。
- ④試験管に半分水を入れ、食器用洗剤を一押し入れて石鹼水を作りましょう。
- ⑤試験管の石鹼水の中に綿棒をひたし、次にその綿棒で食用着色料入りの牛乳に触れてみましょう。（混ぜないでください。）
- ⑥食器用洗剤が牛乳の表面の張力を壊し、多彩（カラフル）な模様の不思議な渦をつくります。
- ⑦別の色の着色料も牛乳に入れてみましょう。
- ⑧もっと色が増えるように、綿棒で食用着色料を動かしてみましょう。



⑬ 音を聞いてみよう

聴覚は人間の五感の1つである。

用意するもの

ビーズ、ボタン、コイン、綿、ボール、乾燥した豆、米、その他小さなもの

やってみよう!

使う道具



- ①上のリストにある家庭用品を持てるだけ集めましょう。
- ②試験管（大）の端をフタで閉め、家庭用品を一度に一つかみ分を試験管に入れましょう。試験管の上方に通気口のついたフタをしっかりと閉めましょう。試験管を手に取り、左右に振りましょう。
- ③それぞれが立てる物音に耳をすましましょう。具体的な言葉を使ってその音を説明してみましょう（たとえば、「チリン（カチン）」と聞こえた、「ガタガタと音がした」、また、綿を説明するときは「静か」、「音がしない」など）。
- ④試験管方の通気口のついたフタをはずし、水を半分入れましょう。試験管にはさっき入れた家庭用品と水が入っているはずです。
- ⑤試験管上方にしっかりとフタ（通気口のない）をして、再び試験管を振りましょう。今度は違う音がしますか？どうしてそう思いますか？
- ⑥今度は通気口のついたフタで、ちがう香辛料、花の香料、食べ物などでやってみましょう。目を閉じてフタの通気口からにおいをかぐだけでそれが何かわかりますか？
- ⑦実験ノートに、試験管の中を動いて聞こえたものに○をつけましょう。
次に、その答えを消して、今度はにおいがしたものに○をつけましょう。最後に見えたものに○をつけましょう。



⑭ 液体のレース

液体は粘性の違いで動く速度が変化する。

用意するもの

水、サラダ油、はちみつ、計量カップ

やってみよう!

使う道具



- ①チューブとコネクタをロートにつなげて、ロートをスタンドに挟み、丸底フラスコと三角フラスコにチューブを差し込みましょう。それぞれのフラスコにはチューブを垂らしておきましょう。
- ②1/4 カップの水をロートと曲がるチューブを使ってフラスコに入れましょう。
- ③同時に大人の手に1/4 カップの油をもう一つのロートを通してフラスコに入れてもらいましょう。
さあ、競争です!
- ④どっちの液体がより速くロートとチューブを通して注ぎ終わるか予想してみましょう。
- ⑤今度は水とハチミツでためてみましょう。どの液体がより速くロートとチューブを通して注ぎ終わるか予想してみましょう。
- ⑥実験ノートを見て、一番早く注がれた液体（水かハチミツ）に○をつけましょう。
- ⑦最後はハチミツと油を使って3度目のレースをやってみましょう。この最後の勝負でどっちの液体がより速くロートとチューブを通り抜けるかを予想して、○をつけましょう。
- ⑧他の液体でも試してみましょう。どの液体が一番速いでしょうか？



15 スノードームを作ろう!

水と油は密度が違うので混ざらない。

用意するもの

ベビーオイル、水性の白色ペンキ、水、ラメ、スプーン、重曹（錠剤）、ストロー（マドラーでも可）

使う道具



やってみよう!

- ①試験管（大）の底にフタをして、1/3 までベビーオイルを入れましょう。
- ②三角フラスコに温水とスポイト 1 滴（または大さじ 1）の白色のペンキを入れましょう。三角フラスコの半分まで十分かき混ぜ、水とペンキを混ぜ合わせましょう。
- ③混ざったら、試験管に白い水を注ぎましょう。（3/4 より多くならないようにしましょう）
- ④ラメをふりかけて底にラメと水が底に沈むのを待ちましょう。
- ⑤さあ雪を降らせましょう!ゴーグルをかけてください。
- ⑥重曹（錠剤）を細かく砕き、そのかけらを試験管に入れ、何が起るかを観察しましょう。
- ⑦吹雪が静まるころになったら、重曹のかけらを追加して変化が起るのを見てみましょう!
- ⑧はたしてどんなことが起こったのでしょうか。油は水より軽いので、水に入れたときに上の方へ留まります。重曹を追加することで対立する力が生まれ、水が押し上げられます。この液体の動きがぐるぐる回って回転する吹雪を作り上げたのです。



16 アイスcreamを作ろう!

用意するもの

クラッシュアイス（かち割り氷）、塩、フリーザーバック 2 枚、フタ付きの大きいボウル、牛乳と生クリームを半分ずつ混ぜたもの、砂糖、バニラエッセンス、計量スプーン

使う道具



やってみよう!

- ①試験管（大）の半分までクラッシュアイス（かち割り氷）を入れ、塩を大さじ 4 入れましょう。
- ②試験管にフタをし、塩と氷が完全に混ざるまでフタをおさえ数分間試験管を振りましょう。
- ③フリーザーバックに次のものを入れましょう。
 - ・牛乳と生クリームを半分ずつ混ぜたもの 1/2 カップ
 - ・バニラエッセンス 小さじ 1/2 ・砂糖 大さじ 1
- ④フリーザーバックに入れたアイスクリームの原料が出てこないように封をして、この袋をもう一つの袋に入れて袋を二重にしましょう。
- ⑤試験管の中の氷を大きなボウルに入れましょう。
- ⑥氷の入ったボウルに袋を入れて、フタをします（またはボウルの上に皿を置きましょう）。
- ⑦液体だった袋の中身が固体のアイスクリームになるまで、ボウルを 5 分左りに振りましょう。
- ⑧ボウルのフタをとり、アイスクリームの固さをチェックしてみましょう。
- ⑨できたアイスクリームをお友達と一緒に楽しみましょう!



17 踊るスパゲッティ

酸(酢)と塩基(重曹)が混ざると二酸化炭素が発生する。

用意するもの

水、約 2.5cm にカットしたスパゲッティ（ゆでたもの）、酢、重曹、水、スプーン、タオル

使う道具



やってみよう!

- ①丸底フラスコに半分の水を入れ、残りの半分は酢を入れましょう。
- ②そのフラスコに約 2.5cm に切ったゆでたスパゲッティを入れましょう。
- ③実験ノートに、フラスコに見えるものを描いてみましょう。水と酢の中でスパゲッティはどうなっているでしょうか？
- ④次に重曹を大さじ 1 入れて何が起こるか見てみましょう。汚れることがありますので、いつも手元にタオルを持っておいてくださいね。
- ⑤更に重曹大さじ 1 を追加してダンスパーティが始まるのを待ちましょう!
- ⑥実験ノートにフラスコに見えるものを描いてみましょう。重曹を加えてスパゲッティはどのように動きましたか？
- ⑦酢と重曹の混合物によって作られた二酸化炭素の泡が、スパゲッティが踊っているように見せたのです。泡がスパゲッティを軽くし、泡が消えることによりスパゲッティを上下へと動かすのです。



18 クマのグミの成長

水分子は、浸透と呼ばれるプロセスによって水からグミに移動する。

用意するもの

水、塩、クマのグミ、スプーン、定規（無くても可）

使う道具



やってみよう!

- ①丸底フラスコの真ん中の線まで水を入れましょう。
- ②それぞれの試験管にも半分まで水を入れましょう。
- ③片方の試験管に大さじ 1 の塩を入れてきつくフタをしましょう。
- ④塩が水に溶けるまで試験管を振ったらフタをあげましょう。
- ⑤水と塩を混ぜた試験管に赤いグミを入れましょう。
- ⑥水だけ入った試験管に緑のグミを入れましょう。
- ⑦それぞれの液体に入ったグミに何が起こるでしょうか。予想してみましょう。
- ⑧ 3、4 時間放置した後に、グミを試験管から取り出し計測しましょう。予想はあたりましたか？どちらかのグミはより大きくなりましたか？どうしてそう思いますか？実験ノートに赤と緑、それぞれのグミの大きさについてをつけましょう。



19 息を使わずに膨らむ風船

酸(酢)と塩基(重曹)が混ざると二酸化炭素が発生する。

用意するもの

重曹、風船、酢、スプーン

やってみよう!

使う道具



- ①ゴーグルをかけましょう。
- ②ロートを三角フラスコの上に置きましょう。
- ③フラスコに 1/4 の酢を入れましょう。
- ④ロートを風船の口に差し込みましょう。
- ⑤ロートを通して小さじ1の重曹を風船に入れ、ロートははずします。
- ⑥風船の口を引きのばして、フラスコの口を覆いましょう。そのとき風船がフラスコにしっかりと取り付けられていることを確認しましょう。風船の丸い部分はフラスコの側面にぶら下がるようにしましょう。
- ⑦風船の中の重曹をフラスコに入れましょう。
- ⑧後ろに下がって見てみましょう。重曹と酢が混ざって二酸化炭素が発生したのです。そしてこのガスが風船を膨らませます。大きな爆発が起きますよ !!!



20 クリスタルの形成

塩水から水が蒸発すると、塩原子が一緒になって結晶を形成する。

用意するもの

水、塩、縫い糸(または麻糸)、大きいクリップ、スプーン、紙、テープ、鉛筆

やってみよう!

使う道具



- ①三角フラスコに 3/4 まで温水を入れましょう。
- ②大さじ一杯の塩を入れて、塩が溶け残るようになるまで、何杯かの塩を追加混ぜ合わせます。フラスコをわきに置きましょう。
- ③大人の人に手伝ってもらって、糸の端にクリップを結び、反対側の端に鉛筆を結びましょう。
- ④フラスコの口に鉛筆を置き、クリップが底につかないように水の中に釣り下がるようにしましょう。その位置に鉛筆をテープで固定しましょう。
- ⑤フラスコを紙で覆い、戸棚のような暗くて乾燥した場所に置きましょう。2 日後には糸に沿って結晶ができていでしょう。
- ⑥フラスコを取り出し、拡大鏡を使ってより近くで結晶を詳しく調べてみましょう。

